

授業評価 2015 (後期) T1U: 工学部情報画像学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.80(2016-02-13) by Yas

2015 年度後期 工学部情報画像学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1U015001	確率と統計	2 年後期火曜 2 限	松葉 育雄	T1U 1
T1U019001	プログラムの設計と実現 II	2 年後期火曜 3 限	堀内 靖雄	T1U 2
T1U021001	画像解析システム論	2 年後期水曜 4 限	眞鍋 佳嗣	T1U 3
T1U022001	回路理論 II	2 年後期金曜 2 限	関屋 大雄	T1U 4
T1U023001	多変量解析	2 年後期水曜 2 限	大澤 範高	T1U 5
T1U047001	符号理論	3 年後期月曜 3 限	須鎗 弘樹	T1U 6

授業科目名	: 確率と統計
担当教員	: 松葉 育雄
年次・開講時限	: 2年後期火曜 2限
授業コード	: T1U015001
授業アンケート	: 回答者数 41人 / 受講者数 68人 (回収率 60%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 41件)

教科書を用いているので, 板書は最小限のとどめている. しかし, 重複してももう少し黒板を利用して, 学生に考える時間を与えるように配慮したい.

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 40件)

期待通り通りであるが, さらにより多くの学生が満足できるように努めたい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の目標の達程度からは, まずまずであったと思う. しかし, 単位が取得できなかった複数の学生は欠席が目立つものであったが, さらな授業に工夫する余地を感じる ..

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 松葉育雄

授業科目名	: プログラムの設計と実現 II
担当教員	: 堀内 靖雄
年次・開講時限	: 2 年後期火曜 3 限
授業コード	: T1U019001
授業アンケート	: 回答者数 48 人 / 受講者数 93 人 (回収率 52%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 45 件)

アンケート結果は 4.27 であり、比較的、学生の満足度は高かったと言える。各回の講義後に簡単な演習を行い、講義内容の確認ができるようになっていたことが効果的であったと考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 44 件)

一方、こちらのアンケート結果は 3.73 となっており、内容の理解が難しかったことがうかがえる。毎回の演習は基本的な問題であったが、最終レポート 2 題は応用課題であり、それなりの難易度と量があったため、1 割程度の学生がレポート未提出という結果となった。毎回の課題の難易度を上げるなど、プログラミングの実力をつける内容も盛り込んでいく必要があるように思われる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本講義で Java 言語の技術を理解するという点において、講義と演習を組み合わせた講義内容は有効であったと考えられる。しかしながら、自分一人で、アルゴリズムを考え、プログラムを実現していくというプログラミングの基礎・応用能力を身に付けるという点が不十分であったと考えられる。最終課題を、そのような能力を身に付ける実践の場として設定しており、実際、そのプログラミングを通じて、理解が深まった学生も見受けられたが、途中で断念してしまった学生もいた。

3. その他のコメントや連絡事項

プログラミング能力は情報系で重要な技術であるだけでなく、デバッグ能力などはトラブルシューティングの力を養うのに最適であり、様々な問題解決への応用が可能である。今後、実験や卒論などでプログラミング技術を有効活用するためにも、今後もプログラムを書く習慣を続けてほしいと考えている。

作成(者): 堀内靖雄

授業科目名	: 画像解析システム論
担当教員	: 眞鍋 佳嗣
年次・開講時限	: 2年後期水曜 4限
授業コード	: T1U021001
授業アンケート	: 回答者数 45人 / 受講者数 92人 (回収率 49%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 45件)

例年, 5号棟 104講義室を使って授業をしていたが, 受講者数が多く, また広い部屋が空いていることが分かったので, 後半から講義室を変更した. それまで我慢してくれていた学生に感謝する. ただ, 移動した2号棟 202講義室では, ロビーで他学科の学生が活動しており, 少しうるさい時がある. 落ち着いて授業が受けられるように注意していきたい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

概ね, 授業内容に満足してくれているようで嬉しい. ただ, 回収率が49%で回答していない学生の不平不満もあると思う. 今後, できるだけ学生からの意見を吸い上げられるように工夫をしていきたいとおもう.

3. その他のコメントや連絡事項

試験を持ち込み可にしているが, そのため, あまり勉強せずに試験を受けている学生がいるように感じる. 社会に出て仕事をする上で, 全て知識として覚えておく必要はなく, 適宜, 必要な情報を調べて使えばいいが, それでも基礎的なことは理解しておかないと, 調べる術がないし, 調べても応用が利かない. もう少し授業で学んだことを復習し, 応用できるように基礎学力・知識を身につけてほしい.

作成(者): 眞鍋佳嗣

授業科目名	: 回路理論 II
担当教員	: 関屋 大雄
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 2 限
授業コード	: T1U022001
授業アンケート	: 回答者数 44 人 / 受講者数 81 人 (回収率 54%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 44 件)

本講義ではスライドをあえて使わず、すべて板書で進めている。具体的にノートに手を動かさないと講義内容を理解することが難しいと考えているためである。その意味で、板書の書き方について認めてもらっていることはたいへんうれしい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 43 件)

今回、試験を通じて結果の差が非常に大きかった。上位の学生は完璧に理解しているし、そうでない学生はほとんど理解できていない。今回回答してない学生の復習時間を知りたいところであるが、本回答をみると、復習をしっかりすれば講義の内容理解が飛躍的に高まることが想像される。実際に手を動かして問題を解くことが大事である。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

前述の通り、回路理論は (I も含めて) 実際に手を動かして問題を解くことが大事である。毎週行っていた復習テストの出来と定期試験の出来は完全にリンクしている。来年度以降、実際に手を動かして問題を解く時間をどのように確保するかについて熟慮していきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 関屋大雄

授業科目名	: 多変量解析
担当教員	: 大澤 範高
年次・開講時限	: 2年後期水曜 2限
授業コード	: T1U023001
授業アンケート	: 回答者数 42人 / 受講者数 79人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 42件)

この項目の評価は概ね良好であった。今後も引き続き Moodle から教材を提供することにしたい。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 42件)

この項目の評価は概ね良好であった。

基本的に毎回演習課題を課すようにしているが、引き続き演習によって理解を深められるようにしていきたい。

また、演習提出時のコメント等ではツールを使った演習のみでは物足りないとの意見もみられたことから筆記による演習を増やしていきたい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 40件)

実際に受けた質問の回数と比べるとこの項目の回答は高すぎると考えられる。

質問しやすいように工夫を重ねたいが、学生諸君にもよく分からない点などは積極的に質問するように心掛けて欲しい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義は多変量解析の基本的な内容になっており、講義を受講すると共に毎回自分で演習課題を解いていけば理解できるようになると考えている。一方、演習課題の提出状況が芳しくない学生は試験成績も振るわない傾向にある。試験では講義内容を比較的満遍なく出題するようにしているので、直前に復習しようとしても十分にはできない。日ごろの勉強が重要である。

3. その他のコメントや連絡事項

最近注目されているビッグデータの処理のための機械学習にも多変量解析の理解は重要である。ただ、講義では時間の関係から触れることができない分析手法も多いので、興味のある学生諸君はぜひ自分で進んだ内容を学ぶようにして欲しい。

また、多変量解析の主成分分析における固有値などをはじめとして線形代数の理解が不可欠である。また、統計学の基礎は講義内で復習しているが、あらかじめ理解をしておくことが望ましい。基礎科目をしっかり学んでおいて欲しい。

作成(者): 大澤 範高

授業科目名	: 符号理論
担当教員	: 須鎗 弘樹
年次・開講時限	: 3 年後期月曜 3 限
授業コード	: T1U047001
授業アンケート	: 回答者数 26 人 / 受講者数 59 人 (回収率 44%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 26 件)

学科全体平均 3.88 に対して, 4.35 と高かったと思われる. 最後の Q29 の欄の自由記述欄に, よく理解できた旨の記述が多く, 現状のスタイルを踏襲していきたい.

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 26 件)

学科全体平均 4.11 に対して, 4.58 で高かったと思われる. 最後の Q29 の欄の自由記述欄に, チェック用の問題を十分に用意していることが良かったようで, 各自の理解を確認できる点が高い満足度の一因になっていると思われる.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

回答数 26 (アンケート回収率 44%) は, 他の科目に比べて低く残念である.

現在の授業は, これ以上簡単にできないほど, 優しく講義している. そのため, 理解度や満足度を含めて, おおむね評価は高いと思う. しかし, 今後, 発展的に, より高度な内容を学習するにあたっては, 数学的な基礎力 (特に, 情報数学や線形代数で学んだこと) が受講生に足りないと思われる. それらの知識と理解があれば, 符号理論の内容を, より深く理解できるはずである. それらを随時復習しながら, 授業を進めていき, 符号理論以前に学んだことが, 符号理論でどのように活かされるのかという点を強調するような授業に改善していきたいと思う.

3. その他のコメントや連絡事項

現在は, 復号のアルゴリズムを中心に教えているが, さらなる応用を考えると, もう少し原理的なことを教えるべきかと思っている. 一方, さらに発展的な内容を教えた方が, より興味をもつのではとも思っている. これらいずれの方法でも, 授業時間が足りないが, レポートや宿題などを活用して, 受講生がより興味を持てるような工夫をしていきたいと思う.

作成 (者): 須鎗弘樹